

2 0 1 3 M A R C H

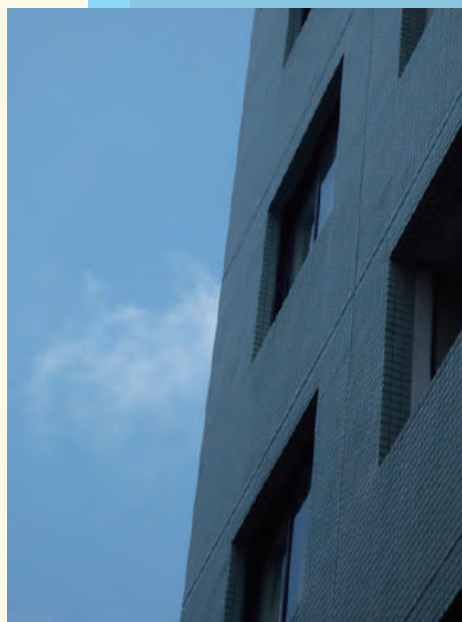
GALLERYROAD

GALLERYROAD

ART & DESIGN & Life

建物や景観は「アート&デザインの街づくり」の大切な“器”です。
しかし、等身大を離れ、俯瞰で眺める街のデザインがどんなに先端的でも
そこに住み、働き、訪れる人々が 豊かな日常を楽しむことができなければ
「アート&デザインの街づくり」も冷たい“器”のままです。

あたたかい生活が薫る街としてのヨコハマポートサイド…
その街のアート&デザイン
人々が出会いを紡ぐ街へ いよいよ、これからが
ほんとうの街づくりのはじまりです。



PORTSIDE

ギャラリーロード
第25号
目次

YOKOHAMA PORTSIDE

ヨコハマポートサイド街づくり協議会



ART&DESIGN



ポートサイド随想

松葉一清

米国の建築家マイケル・グレイブスは1980年代の寵児だった。都市と建築が行き過ぎた機能主義で袋小路に入った時、グレイブスは華麗な出で立ちの作品を次々と手がけ、モダニズムからポスト・モダンへと現代建築が大きく舵を切る時代の先頭に立った。

「ポートサイド地区」にそのグレイブスの作品が降臨したのは画期的な出来事だった。1980年代にウォーターフロント開発を核とする新たな都市の時代が始まった。その一翼を横浜が担うにあたって、「ポートサイド地区」にグレイブスを獲得したことは大きな援軍となった。

わたしがポートサイドの都市づくりに参加するにあたり、グレイブスの実作が水辺の一角を占めることに大きな誇りを抱いた。モダニズムの誤謬の都市づくりに終止符を打ちたかったからである。無機的な四角い箱に規則正しく四角の窓がうがたれたモダニズムの建築を「究極の美」とした誤りを、グレイブスのタワーという実作で葬り去りたかった。

頂部と胴体、そして足元で意匠を、人体に倣って切り換えるヨーロッパの伝統的な建築のありかたが超高層集合住宅で実践された。スカイラインは葺戸（ルビ・しとみど）を思わせるシェードをはね上げたような仕立て、建物本体の上半分は格子の組み合わせ、下半分は隅を丸めて、足元は大振りのタイルを張りつめた。グレイブスならではのざっくりとした量塊感の造形は、後続を斥けて横浜の現代建築の最高峰の地位を譲らない。

そして、なお素晴らしいことに、彼の描いた図像をもとにしたカラーパレットが「ポートサイド地区」の一角に美しい壁画となって今も存在し続けている。この壁画は「THE WINDOW」と命名され、「ポートサイド地区」において新たな建築の創造を企てる者はこの壁画から外装の色彩を選ぶべしという提案である。こうした取り決めをしている都市開発は国内にも存在するが、それを現実の街頭にきちんと巨大なオブジェの形で設営しているのは類例がない。「ポートサイド地区」が、「アート&デザイン」をテーマに都市づくりを継続してきた原点がそこに見られよう。

このグレイブスのパレットと道路を挟んだ一角には、イタリアのデザイナー、エットーレ・ソットサスによる屋外彫刻「THE FAMILY」がユーモラスながら、どこか妖艶な姿で鎮座している。中央に位置するまるで鶏冠のような冠を被った純白の立体は父親なのだろう。とがった頂部のブルーの立体は母親であり、少し背の低い黄色い波形のオブジェは子どもということになる。デザインの世界において、ソットサスもまたミラノにおいてポスト・モダンのグループ「メンフィス」を結成し、機能主義の呪縛からの解放を実践した。

グレイブスもソットサスも「ポートサイド地区」の開発が立ち上がる最初の時期に作品を実現させた。横浜は「ポートサイド地区」において、グレイブスとソットサスという世界のポスト・モダン状況の「本尊」を勧請し、わが国の街づくりのなかで先進性を誇示した。当初「みなとみらい21」が東京と競い合う業務地区を歌い文句としていただけに「アート&デザイン」をテーマに掲げる「ポートサイド地区」らしさは際立った。

それにしても「THE WINDOW」を壁面に備えた「IDCビル」が未開発の「ポートサイド地区」にぽつんと立ちつくしていた20年前の光景を思い出すにつけ、現在の街の姿に、ある種の感慨を抱く。米国仕込みのランドスケープアーキテクト、長谷川浩己の「ポートサイド公園」、商業モールの達人、北山孝次郎による「横浜ベイクォーター」など、この地区にふさわしい、技ありのプロジェクトも相次いで登場し、横浜駅に近い立地のよさと相まって地区の本領が発揮されつつある。

次の20年もしっかりと歩み続け、都市づくりの先進地ヨコハマらしさをもっと発信できる街になることを期待したい。





ポジティブなコミュニティという場の実験

岩瀬 潤子

横浜駅東口からほど近いポートサイド地区。該当エリアの未来像は、「アート&デザインの街づくり」を地区開発のコンセプトに掲げた「ヨコハマポートサイド街づくり協定」が策定された1989年当時、極めて斬新なものだった。1989～90年にかけて、私は学生としてイタリア留学中だったので、アート&デザインの街づくりや、公益信託基金ヨコハマポートサイド・トラスト設立へ向けての会議に参加するようになったのは、1990年の年末か、1991年に入ってからだったのではないと思う。その頃、まさに日本経済は「バブル崩壊」という時期にあり、毎日のように「いやあ、これから大変ですね」という会話が交わされながらも、まだ、なんとなく人々は景気後退が「人ごと」であるかのように語っていて、根拠も無いのに「すぐに、また、景気は良くなるさ」と思っていたフシがある。それから20年以上が経過した。この話の結末は、誰もが知ってのとおり、日本の景気は20年以上が経過しても良くはなっていない。

2013年春、自民党による新たな政権の誕生を受け、またしても「きっと景気は良くなるだろう」という期待値による日本経済復調の兆しが微かにみえてきたものの、3月中旬以後、TVのニュースで報道されているキプロス危機の影響で、あっという間に世界の株価は値を下げ、それに連れて瞬間に円は買い進まれている。実態のない景気浮揚など、結局のところ、蜃気楼のように儚いものだとすることを胆に銘じた上でこれからの日本とどう向き合っていくのかを考えないといけないのだということを改めて実感した。

特集 アート&デザインの街づくり



これまで／これから

YOKOHAMA PORTSIDE ART&DESIGN



公益信託ヨコハマポートサイドまちづくりトラストとの付き合いはかれこれ20年以上。日本の公共事業や行政による政策的な地域開発のことなどまったく無知であった私は、最初の会議に呼ばれた頃は希望に溢れ、無邪気で、何も考えず、飽きもせずいろんな提案を行ったものだ。しかし、その後、様々な公職についたり、大学で研究・教員生活を送ったりしたおかげで、人並みの知識を得たり、経験を積み、そして何よりも年を重ねたことで、モノの見方は二十代の頃からは大きく変わってしまった。悲観的に考えることが多くなったのだ。

そういう意味では、20年前と同じパッションと希望をもってヨコハマポートサイド地区について語るのには難しい。今の日本の経済状況を目の当たりにすれば、楽観的になろうとするのは無謀といっても良いだろう。でも何も打つ手がないかといえば、そういうわけでもない。幸いインフォメーション・テクノロジーは20年前に比べたら遙かに進歩している。

使える予算に余裕がないから何でもネット上で済ませようというのではない。今までずっと「どうしたらヨコハマポートサイド地区の中にコミュニティ意識を育てることができるのか」、「年に一度の運営委員会では何の議論もできない」といった問題を解消するのに、インターネット上のソーシャルなプラットフォームは、実際、有効だと思う。

今、私たちが置かれている状況…ポスト2011.3.11の日本において、根拠の無い楽観は許されない。だからといって、ポジティブな議論を諦めてしまうのは悔しいし、もったいないので、この時期にこそ、整備が遅れているネット回りのいろいろなこと・・・本当の意味でのコミュニティ形成に力を尽くしてみたいのではないかと考えている。

現実のコミュニティの中だけでの付き合いという壁を超えて、日本全国の様々な地域の住民、海外に在住して、いずれ日本に帰りたいと考えている日本出身者たちの理想とするヨコハマポートサイドの姿を、ネット上で時間をかけて議論しながら、間違いの許されない次の一步の置き先を、慎重に決めていくのがいいのではないだろうか。そういう意味では、まだまだヨコハマポートサイド地区に、先鋭的な実験場としての役割は残されているし期待も大きいはず・・・と思いたい。

Junko Iwabuchi

アグロスバシア株式会社取締役 / AGROSPACIA 編集長
カリフォルニア美術工芸大卒、同大大学院修士過程修了後、ニューヨーク、ホイットニー美術館においてヘレナ・ルービンシュタイン・フェローとして在籍。
伊・フィレンツェのL'UIA 付属美術館学研究所、英国エセックス大学大学院博士課程で研究を続けながら執筆活動を開始。静岡文化芸術大学助教授、慶應義塾大学教授を歴任の後、2012年11月より現職。
公益信託ヨコハマポートサイドまちづくりトラスト運営委員

主な著書に「ニューヨーク午前0時 美術館は眠らない」朝日新聞社、「億万長者の贈り物」日本経済新聞社、「ルーベンスが見たヨーロッパ」筑摩書房、「美術館の誕生」中公新書、「美術館で愛を語る」PHP 新書他多数



“幻のやきもの” 宮川香山の眞葛焼

明治時代に日本で製作されたやきもので、現在国の重要文化財に指定されている作品は、わずか2点。その2点は共に、横浜で製作された眞葛焼（まくずやき）です。かつて、イギリスやフランスそしてアメリカなどの欧米各国で高い評価を得た眞葛焼ですが、近年では“幻のやきもの”とも称されています。

眞葛焼は1871（明治4）年、横浜に初代宮川香山（みやがわこうざん）が眞葛窯を開窯し製作したやきものです。初代宮川香山は、1842（天保13）年、京都で代々やきものを生業とする家に生まれました。眞葛という名は、父である長造が京都の眞葛ヶ原に窯を築き、「眞葛」の号を使用していたことが由来です。

国内外の博覧会にはほぼ毎年のように出品された眞葛焼は、輝かしい受賞を重ね、エミール・ガレやロイヤルコペンハーゲンにも影響を与えたと指摘されています。

窯は、二代、三代と続きましたが、横浜大空襲により甚大な被害を受け、閉鎖に追い込まれました。また、優品の多くは海外に輸出され、国内に現存する作品が少ないことから、“幻のやきもの”と呼ばれているのです。

宮川香山 眞葛ミュージアム

宮川香山 眞葛ミュージアム 館長
山本 博士

宮川香山 眞葛ミュージアムの開館と これまでの活動

宮川香山 眞葛ミュージアムは、2010（平成22）年10月10日に、アート&デザインの街、ヨコハマポートサイド地区のギャラリーロード沿（ロア参番館1階）に開館、以後、海外から里帰りした約50点の眞葛焼作品の展示施設であるとともに、眞葛焼をはじめとする近代工芸、横浜開港史などについての研究交流拠点として運営されています。

また、開館以来、さまざまな企画展やイベントを開催してきました。2011年3月に開催したヨコハマポートサイド地区街づくり協議会主催のギャラリートークを皮切りにアート縁日に出展参加、また OPEN YOKOHAMA にも参加、他団体と交流を図りながら多彩なイベントを開催してきました。

特に、昨年5月に開催した「触れる・学ぶ・楽しむ 眞葛焼」では、明治時代に流行した煎茶文化を紹介し、来館者に実際に眞葛焼の煎茶器を使って煎茶を楽しんでいただき、高い評価を受けました。



これまで／これから

ART&DESIGN
YOKOHAMA PORTSIDE

特集 アート&デザインの街づくり

宮川香山 眞葛ミュージアムのこれから

ミュージアムが開館して3年になりますが、当初想定していなかった反響もありました。例えば、観光スポットやまち歩きの対象施設として、メディアや関連団体から注目されたこともそのひとつです。2013年2月には、大きな企業に拠るものではなく地域の中小企業が行う文化貢献事業であることが海外のメディアから評価され、韓国 KBS テレビから取材を受けました。

そうしたことから、ミュージアム事業には、美術品としての眞葛焼を展示する以外にも、多様な意義が存在することを実感しています。現在当ミュージアムが最大の課題としているのは、展示、收藏している作品を、地震や津波からどうやって守っていくかということです。ポートサイド地区内のより適した場所へ移転させることも視野に入れながら、検討を進めていきたいと考えています。



● これまでに開催された企画展

- 2010年10月10日～ 歴代香山優品展
- 2011年 1月15日～ 開運！縁起紋様の眞葛焼
- 5月 7日～ 初代宮川香山名品展
- 10月 8日～ 初代と二代の饗宴展 ～受け継がれた技～
- 2012年 2月11日～ 驚愕の超絶技巧展
- 9月15日～ 色彩の魔術師 宮川香山展

● これまでに開催されたイベント等

- 2011年 3月21日 ヨコハマポートサイド地区街づくり協議会主催 ギャラリートーク
- 5月22日 ポートサイド自治会対象 眞葛焼ギャラリートーク
- 7月 6日～ 丸広百貨店(埼玉県)「横浜ベストコレクション」眞葛焼サテライト展示
- 9月 9日 「OPEN YOKOHAMA 2011」連動ミュージアムトーク「幻の焼き物 眞葛焼」
- 10月 8日/9日 「アート縁日」特別出展 眞葛焼サテライト展示
- 2012年 5月 4日～ ゴールデンウィーク特別イベント「触れる・学ぶ・楽しむ 眞葛焼」
- 6月27日～ 丸広百貨店「第2回横浜ベストコレクション」眞葛焼サテライト展示
- 7月21日 横浜市立大学 大学院生対象 眞葛焼セミナーの開催
- 10月 6日/7日 「アート縁日」、「OPEN YOKOHAMA 2012」連動特別イベントの開催
- 11月21日 神奈川法人会 ポートサイド支部主催 眞葛焼講演会
- 12月22日 神奈川県立歴史博物館ボランティアガイド 眞葛焼勉強会の開催

土曜日、日曜日のみ開館(年未年始など休館日あり)

開館時間 午前10時～午後4時まで

入館料 大人500円/中・高校生200円/

小学生以下無料

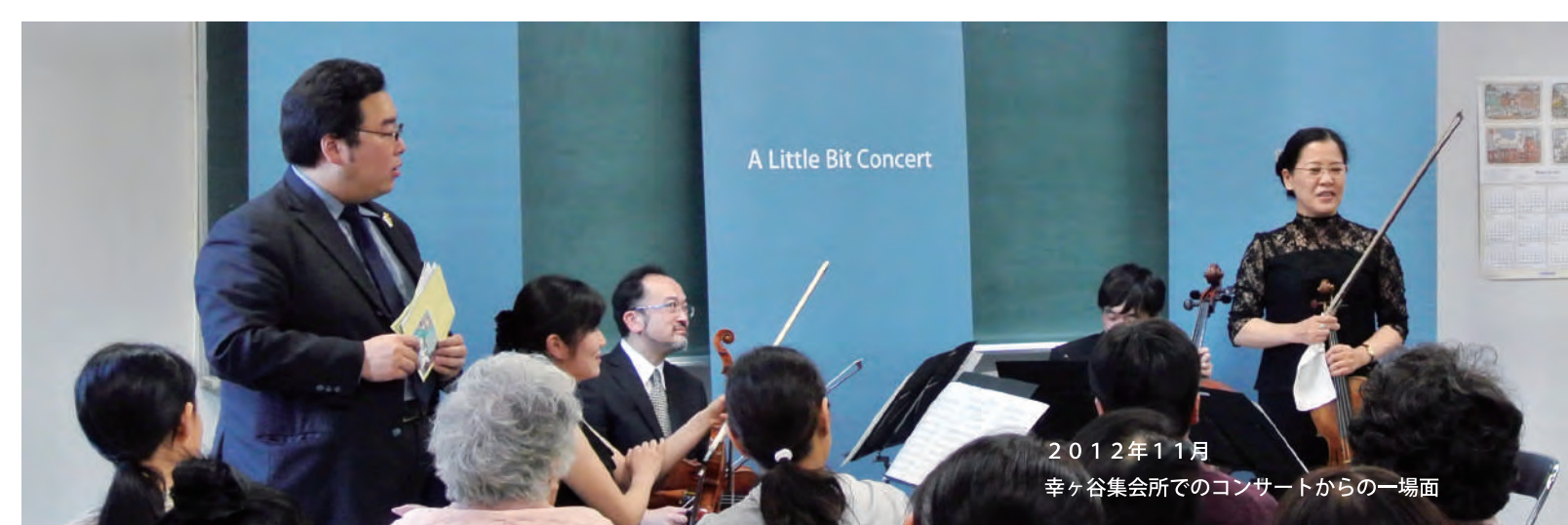
場 所 神奈川区栄町6-1

ヨコハマポートサイド ロア参番館1階-2

電 話 045(534)6853

運 営：株式会社三陽物産





2012年11月
幸ヶ谷集会所でのコンサートからの一場面

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 ヨコハマポートサイドから 地域への取り組み

神奈川フィルハーモニー管弦楽団
企画プロデューサー

別府 一樹

神奈川フィルは1970年に財団法人として設立以来、神奈川県全域を主な活動地域に、「地域の音楽文化創造」をミッションとして活動をするオーケストラ演奏団体です。

私たちは、地域への取り組み、その具体的な方針について「4つの柱」で考えています。第1の柱は「子どもたちへの芸術教育」。子どもたちの創造力と感性を育て、本物の芸術の醍醐味を知ってもらうために、校歌や生徒が作曲した曲をオーケストラで演奏するなど、常に工夫をこらした内容で、横浜市内、神奈川全域で演奏会を開催しています。

第2の柱は「若手音楽家の育成」。神奈川県出身の若い演奏家との共演を定期的に行なうほか「副指揮者」制度を通じ、現場での演奏家育成に取り組んでいます。



子どもたちも楽器に触れることができる
体験型演奏会
「みんなのオーケストラ」事業

特集 アート&デザインの街づくり

これまで／これから

YOKOHAMA PORTSIDE ART&DESIGN

第3の柱は「地域のスポーツクラブ等との連携実現」。そのために、野球・サッカー等の試合にファンファーレ隊を派遣、地元のみなさんを一緒に盛り上げる活動を行なっています。

そして、最後の柱は「無料コンサート」。現在、楽団の存続のための重要な基金活動（ブルーダル基金）を行っていますが、さらに、ご理解とご協力をえるために大小様々な無料コンサートを県内各地で開催しています（2012年度には50公演ほどの無料公演を開催。その一環として、「オーケストラの休日」と題し、ランドマークタワー・ガーデンスクエアで行ったパブリック・スペースでのフル・オーケストラ演奏は、毎回1千人を超えるお客様に楽しんでいただいています）。



「オーケストラの休日」
ランドマークタワー・ガーデンスクエア

そうした活動を踏まえ、2012年からヨコハマポートサイド地区にて、管弦楽団とお客様の新しい出会いを求めて、小さなコンサート活動を始めさせていただきました。

その2012年では、幸が谷集会所にて、演奏者の表情や息遣いまでも感じられる距離感で、演奏のみならずお客様との身近なふれあいを演出するコンサートを実施、ご来場の皆様に好評をいただきました。

これからも神奈川フィルは音楽を通じて地域を豊かにする活動を続けていきます。



「みんなのオーケストラ」事業から

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

1970年3月に発足。「神奈川の文化のシンボル」として親しまれながら全国的な活動を続け、これまでに「安藤為次教育記念財団記念賞」（1983年）、「神奈川文化賞」（1989年）、「NHK 地域放送文化賞」、「横浜文化賞」（2007年）を受賞している。また、創立30周年を記念して創設した「神奈川フィル合唱団」を率いての2002年第189回定期演奏会プッチーニの歌劇「トゥーランドット」（演奏会形式）や、2003年第200回記念定期演奏会の「蝶々夫人」（演奏会形式）などは、多方面から絶賛された。

オーケストラの魅力を広くアピールしながらファンの底辺拡大を目指し、ポップスにも力を入れている。ボランティア活動にも積極的で、県内の養護施設等を対象としたボランティア・コンサートや出張コンサートを毎年開催。多くの観客とのふれあいが大きな感動を呼んでいる。2009年4月から金聖響が常任指揮者に就任。2010年からは、マラーシリーズをスタートして好評を博す。テレビ朝日系列「題名のない音楽会」に出演するなど、今最も注目されているオーケストラである。

2012年は、曇天から雨天(2日目の午後になって晴れ間もみえた)という、あいにくの天候での開催になりましたが会場はいつものように、おだやかで和やかなアート縁日らしい雰囲気には包まれていました。

悪天もあって、残念ながら、多くの来場者数に恵まれることはありませんでしたが、出展者の売り上げは概ね好調で、定期的なアート縁日ファンの実数の多さ、底堅さを明確にした開催でもありました。

今年度の開催では、神奈川フィルハーモニー管弦楽団によるテント出展があり、活動を紹介するパネル展示や、同管弦楽団を応援するブルーダル基金の募金活動も行われました。また、地区内ロア参番館の宮川香山・真葛ミュージアムの企画出展(テント出展)もあり、真葛焼にちなんだクイズなどで来場者を喜ばせていました。



横浜クリエイションスクエア アトリウム会場

横浜クリエイションスクエア・アトリウム会場は、これまでのアート縁日にはなかったインドア(屋内)の会場です。この会場があることによって、雨だけでなく、風に弱かった紙を使った作品や、軽量の銀細工や繊細なガラス工芸などの出展が可能になり、このことによって、さらに様々な分野の造り手の方に展示してもらうことが可能になりました。特に繊細な技を自慢にするプロフェッショナルな造り手の方にとってインドアの会場があることは大きなアドバンテージになります。

一方、横浜クリエイションスクエア周辺の公開空地は、ワゴン1基を基準に手軽に出展できるスペースです。これまでのアート縁日では1.8m×1.8mのスペースを単位に出展が定義されてきましたが、そのスペースはアマチュアや初心者が一人で出展するには広すぎる部分もありました。そうしたことから、横浜クリエイションスクエア周辺公開空地には、小規模で作品を展示する什器を自作する負担も少ないワゴンでの出展場所を配しました。

以上のような新しい出展形式に従来に近いテント出展を加え、より広範な出展を可能にしました。

これからは、このかたちをさらに「にぎわい」づくりに繋げていけるよう、さらに工夫を重ねていきたいと考えています。



コンカード横浜会場

10月6&7日 アート縁日 21

- 開催日 2012年10月6日(土曜日)及び7日(日曜日)
- 開催時間 午前10時~午後5時(両日とも)
- 開催場所 横浜クリエイションスクエア(ycsビル)アトリウム
及び周辺公開空地
コンカード横浜 周辺公開空地
- 特別出展 神奈川フィルハーモニー管弦楽団/宮川香山・真葛ミュージアム
- 協力 横浜クリエイションスクエア/コンカード横浜
- 後援 横浜市都市整備局

- 出展数 110ブース(インドア出展38/ワゴン出展26/テント出展46)
- 来場者数 20,000名



横浜クリエイションスクエア
周辺公開空地会場

神奈川フィルハーモニー管弦楽団との コラボレーション企画

神奈川フィルハーモニー 管弦楽団は、神奈川県内で唯一のプロフェッショナル・オーケストラ。定期演奏会はもとより、県内主要ホールで特別演奏会を開催され、映画音楽などポピュラー音楽を演奏をするポップス・オーケストラまで、幅広い活動をされています。また学校などでの音楽鑑賞会や、スポーツ競技会でのファンファーレの演奏など、地域に密着して音楽文化を創造してこうとする活動を活発に展開されています。

2012(平成24)年度から、そんな神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、ヨコハマポートサイド地区において、さらに「地域密着型の活動を」という趣旨のもと、多くの市民のみなさんや企業の方のみなさんとの新しいコラボレーションのスタイルや事業をつくり出していくための実験的な活動を開始されました。



7月8日 A Little Bit Concert vol.6

演奏曲目 エルガー「愛の挨拶」、ドボルザーク「ユーモレスク」
ロジャース「サウンド・オブ・ミュージック・メドレー」 他

2012年度は、これまで街づくり協議会が行ってきたミニ・コンサート・シリーズ「A Little Bit Concert」に向け、弦楽四重奏団を特別編成して演奏を聴かせていただきました。

7月8日の開催には、ヴァイオリンに平井茉莉さん、山下佳子さん、ヴィオラに高木泰子さん、チェロに只野晋作さんをお迎えし、「サウンド・オブ・ミュージック・メドレー」などのポップス・ナンバーも演奏され、会場は親しみやすいあたたかい雰囲気になりました。

11月10日のご出演は、ヴァイオリンの平井茉莉さん、船山嘉浩さん、ヴィオラの 高木泰子さん、チェロの只野晋作さん。この開催では、日本人の郷愁を誘う「春がきた、春の小川、花、七夕、夏の思い出、小さい秋、赤とんぼ、たき火、雪、お正月」などの「唱歌」メドレーが演奏されました。

両開催ともに同管弦楽団企画プロデューサーである別府一樹さんから楽曲や楽器について判りやすい解説が行われ、11月10日開催では、演奏者の方から、それぞれの担当楽器について来場者のみなさんに向けて簡単なクイズが出題されました。

会場になった幸ヶ谷集会所には、客席から一段高くなったステージなどがありません。それ故、演奏者と聴衆は同じ平面にいて音楽を楽しむことになるわけですが、小さな会場でのコンサートというだけでなく、こうしたことが会場の一体感を生み出しているようです。

これからも、さらに多彩なコンサートが展開され、地区内外の方に良質の音楽を楽しんでいただけるよう、街づくり協議会も、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の活動を応援していきたいと考えています。



A Little Bit Concert vol.7 11月10日

演奏曲目 モーツァルト「ディヴェルティメントK.136より第3楽章」
パッヘルベル「カノン」/「マイ・フェア・レディ」より『踊り明かそう』
「アメイジング・グレース」/四季の詩(うた)季節の唱歌メドレー 他

コンサート終了後には、演奏者のみなさんにも、お客様を見送っていただき、ブルーダル基金への募金活動や関連のキャラクターグッズの販売などもおこなわれました。ご来場のみなさまにもたくさんの応援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。



プレミスト横浜ポートサイド

横浜駅からアプローチすると、ヨコハマポートサイド地区のエッジ、最後の建物として、現在「プレミスト横浜ポートサイド」の建設が進められています。

総戸数142戸の住宅棟は2013年8月に完成予定。横浜駅側から続く三層構成と調和をとりながら、ポートサイド地区のエッジを彩るデザインを提案する建物です。



エントランスホール完成予想図

エントランスホールには壁面に「歴史」「海」「空」をモチーフとしたウォール・アートを配置。日本で最初に鉄道が開通した横浜という街の記憶にちなんでエントランスホールとラウンジから眺められる中庭にはレールとプラットフォームが描かれている。

● ボリュームの分節

建物の南棟（順梁+ガラス手摺）と西棟（逆梁）の構造形式を変え分節化することで圧迫感を軽減。見る確度に拠って表情が変化するシンボリックなデザインに。

● ポートサイドとしての景観

街並の雰囲気や醸成させるため、ベースカラーを薄いグレートとし南棟のファサードをガラス手摺にして、ウォーターフロントにおける水と空をイメージ。ブルーグリーンで街並にも配慮。

● 基層部〈低層部〉

ギャラリーロードから壁面を後退させ、歩道状空地を確保。街並の連続性に配慮。床材もギャラリーロードの歩道に合わせた素材を使用して落ち着いたデザインに。



● トップ〈屋根〉

ポートサイド地区のエッジとして境界を表現しながら、さらに上へと向かう先端によって可能性を暗示させるデザイン。また、フィンにテーパーを取ることにより、トップにボリューム感を持たせ、遠方から見ても特徴的なスカイラインに。

○ 垂直性

南棟のシンボリックなデザインを構成する壁柱（マリオン）とその頂部のフィン。ポートサイド地区の気品とグレードを表現。

● ボディ〈高層部〉

海に向かう南棟は横浜の先進性、海の明るさ、空の広さを感じさせるガラス手摺の光沢感でクールさを表現。両サイドの袖壁を低層部より内側にしボディのボリューム感を低減。

外観完成予想 CG

- 竣工 2013年8月予定
- 住所 神奈川県栄町16番5・6（地番）
- 総戸数 142戸（他に管理室1戸、集会室1戸、店舗1戸）
- 構造及び階数 RC構造 地上14階/地下1階
- 駐車場 116台/駐輪場142台/バイク置き場 8台
- 設計 大成建設株式会社 一級建築事務所
- 売主 大和ハウス工業株式会社



外観完成予想 CG

街づくり協議会 会員企業及び団体

株式会社 大塚商会

株式会社 加藤美峰園本舗

神奈川トヨタ自動車 株式会社

菱重エステート 株式会社

京急開発 株式会社

株式会社 相鉄アーバンクリエイツ

中外倉庫運輸 株式会社

トーヨーカネツ 株式会社

独立行政法人 都市再生機構

ソフトバンクテレコム 株式会社

畠山物産 株式会社

三井不動産 株式会社

三菱重工業 株式会社

三菱倉庫 株式会社

ハドソンジャパン 株式会社

財団法人 横浜市建築助成公社

横浜市住宅供給公社

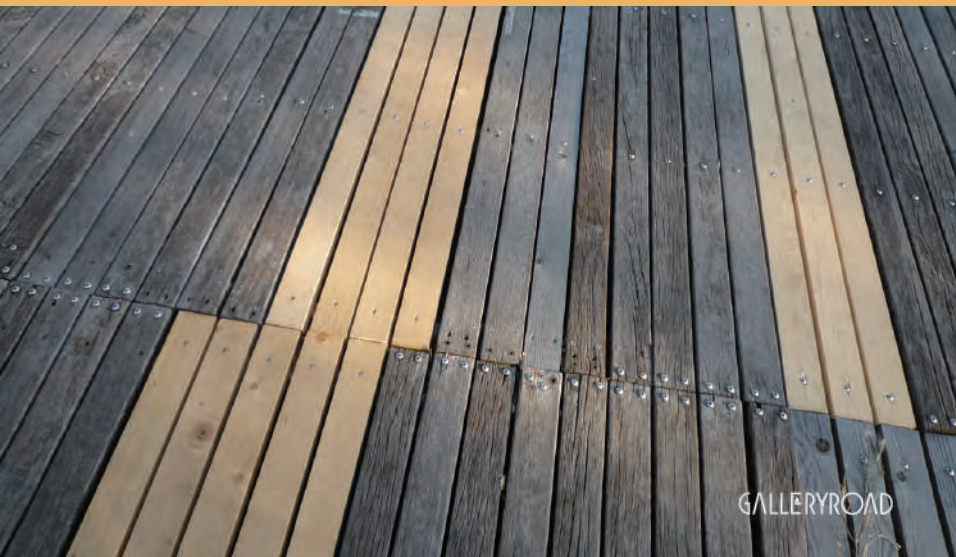
株式会社 ランドビジネス

横浜市



YOKOHAMA PORTSIDE

2 0 1 3 M A R C H



発行 ヨコハマポートサイド街づくり協議会

web-site = <http://www.portside.ne.jp/>

編集 ヨコハマポートサイド街づくり協議会 アート & デザイン・コーディネーター事務局

Photo 045(534)8598